

平成30年度

川崎市自動車運送事業会計決算の概況について

交 通 局

1 平成30年度自動車運送事業会計決算概況

(総括事項)

市バス事業は、市民の大切な公共交通機関として重要な役割を果たしており、安全を第一の使命としつつ、お客様に満足いただける利用しやすいサービスの提供を行うとともに、持続可能な経営に努めております。

平成30年度の経営状況について、収入としては、人口増などを背景とした輸送需要の変化に対応したダイヤ改正や路線の新設等に取り組み、市バスネットワークの充実を図ったことなどにより、乗車人員が増加し、乗車料収入全体として前年度を上回りました。支出としては、軽油価格の上昇により燃料費が、また、営業所管理委託の拡大により委託料が、それぞれ増加したものの、職員数の減や、退職手当支給率の引き下げなどにより人件費が減少したことから、支出額全体として前年度を下回りました。収益的収支としては、前年度に引き続き黒字決算を確保しました。

今後も輸送の安全性を着実に確保するとともに、お客様サービスの向上と経営基盤の充実強化に取り組んでまいります。

(1) 営業状況

(運輸成績)

事業の根幹である乗車料収入は、乗合乗車料収入と貸切乗車料収入を合わせ 81 億 247 万 973 円で、前年度と比較して 9,826 万 5,641 円の増、乗車人員は 5,080 万 1,434 人で前年度と比較して 67 万 8,413 人の増となりました。

(安全な輸送サービスの確保)

安全な輸送サービスを確保するため、運転手実技研修や事故防止研修等を実施するとともに、歩行者等にバスの接近を知らせることができるウインカーチャイムや夜間の視認性を高めるLEDヘッドライトを全車に導入し、バス車両の安全対策を強化するなど、運輸安全マネジメントを着実に推進しました。

また、事故の発生を未然に防ぐための取組として、小学校、幼稚園等における交通安全教室を全7区で開催したほか、交通安全に関するDVDやパンフレットを作成し、市内小学校に配布するなど、交通安全に係る啓発活動を推進しました。

(安心・快適なサービスの充実)

北部地域の輸送需要に対応するため、「鷺沼駅～聖マリアンナ医科大学前」系統の路線運行を開始しました。また、利便性向上を図るため、「溝口駅南口～新百合丘駅前」系統の朝夕の時間帯を中心に増発するダイヤ改正を行うとともに、溝口駅南口及び宮前平駅から、犬蔵・南平方面への深夜バスの運行を開始しました。

バス停留所施設の改善としては、上屋4基、照明付バス停留所標識20基、二面式バス停留所標識20基、停留所ベンチ68脚の整備を行うとともに、市バスの運行情報をパソコン、スマートフォン等で提供する「市バスナビ」を更新し、多言語対応など、機能の充実を図りました。

また、川崎駅から路線バスを利用するお客様の利便性向上を図るため、J R川崎駅中央改札口前に、デジタルサイネージを活用した、民間バス事業者を含めた案内情報を表示するバス総合案内表示板を設置しました。

（経営基盤の充実・強化）

上平間営業所及び井田営業所については、引き続き、管理委託による運行を行いました。また、上平間営業所については、新事務所棟が竣工し、供用を開始するとともに、旧事務所棟の解体工事に着手しました。

事業基盤を支える人材については、正規職員の退職動向を踏まえた計画的な採用を実施するとともに、全国的にバス運転手が不足している状況を踏まえ、大型自動車第二種免許を保有していない若年層を対象とした、市バス運転手（養成枠）の採用選考に向けて募集を開始しました。

このほか、運転技能コンクールの他事業者との共催、模範となる職員への市長表彰等の実施、職員表彰受賞歴のバス車内名刺への掲出などにより、職員のモチベーションの維持・向上を図りました。

また、市バス輸送サービスを持続的に提供し、市民やお客様の大切な交通手段を確保するため、令和元年度から7年間で計画期間とする「川崎市バス事業 経営戦略プログラム」を策定するとともに、乗車料金改定に向け、川崎市乗合自動車乗車料条例及び川崎市貸切自動車条例を改正しました。

（社会的要請等に対応した事業の推進）

バス車両を20両購入し、そのうち2両については環境負荷の少ないハイブリッドバスとしました。

地域やお客様に親しまれる取組として、市バスキャラクター「かわさきノルフィン」と「ハローキティ」とのコラボレーションによる事業展開を行い、かわさきノルフィン10周年を記念した、衣装デザインコンテストを実施するとともに、入賞作品がデザインされたラッピングバスの運行を行いました。

また、市内小学校の児童による絵画作品等を掲出したギャラリーバスの運行、「市バス♥安全・安心フェスタ」の開催、営業所近隣の小学生とともに装飾したハロウィン装飾バス及びクリスマスイルミネーションバスの期間限定での展示、運行等を行いました。

（2）経営成績

収益的収支は、事業収益100億6,577万6,856円に対して、事業費用は94億4,138万5,142円で収支差引は6億2,439万1,714円の黒字となり、消費税等を除いた収支差引では、5億2,589万5,029円の純利益となりました。この結果、平成30年度未処理欠損金は15億2,665万4,164円となりました。

また、財源収支は4,727万5,843円の資金余剰となりました。

2 平成30年度自動車運送事業会計決算（総括表）

（単位：円、％）

(1) 予算執行状況(税込)

ア 収入

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益的収入	10,005,210,000	10,065,776,856	60,566,856	100.6
2 資本的収入	1,506,633,000	1,317,136,811	△ 189,496,189	87.4
合 計	11,511,843,000	11,382,913,667	△ 128,929,333	98.9

イ 支出

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益的支出	10,083,841,000	9,441,385,142	△ 642,455,858	93.6
2 資本的支出	1,733,637,120	1,537,503,408	△ 196,133,712	88.7
合 計	11,817,478,120	10,978,888,550	△ 838,589,570	92.9

(2) 総合収支

区分	収入	支出	収支差引
総合収支	11,382,913,667	10,978,888,550	404,025,117

(3) 財源収支

項目	金額	内訳
①総合収支差引額	404,025,117	
②当年度分損益勘定留保資金等	△ 131,789,548	減価償却費 254,025,320 固定資産除却損 19,319,648 引当金 △ 362,017,350 長期前受金戻入 △ 41,697,398 翌年度支払いのファイナンスリース債務 △ 1,419,768
合 計 ③ = ① + ②	272,235,569	当年度財源余剰(△不足)額

(4) 累積財源過不足額

前年度末財源余剰(△不足)額	④	△ 224,959,726
当年度財源余剰(△不足)額	③	272,235,569
当年度末財源余剰(△不足)額	④ + ③	47,275,843

(5) 経営成績(税抜)

科目(費用)	金額	科目(収益)	金額
営業費用	8,918,515,039	営業収益	8,224,346,685
営業外費用	86,286,549	営業外収益	1,305,962,943
特別損失	0	特別利益	386,989
総費用	9,004,801,588	総収益	9,530,696,617
当年度純利益	525,895,029	当年度純損失	—
前年度繰越利益剰余金	—	前年度繰越欠損金	2,052,549,193
当年度末処分利益剰余金	—	当年度末処理欠損金	1,526,654,164

3 業務量

(1)乗合自動車事業

区 分	平成30年度		平成29年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
期末営業キロ	200.59 km	-	195.42 km	-	5.17 km	-
営業日数	365日	-	365日	-	0日	-
期末在籍車両数	344両	-	341両	-	3両	-
延実働車両数	108,256両	297両	106,666両	292両	1,590両	5両
実車走行キロ	13,017,759 km	35,665 km	13,019,199 km	35,669 km	△ 1,440 km	△ 4 km
乗車人員	50,346,817人	137,936人	49,740,307人	136,275人	606,510人	1,661人
増減率					1.2%	1.2%
定期	13,172,045人	36,088人	12,872,922人	35,268人	299,123人	820人
うち特別乗車証分	2,693,980人	7,381人	2,782,854人	7,624人	△ 88,874人	△ 243人
定期外	37,174,772人	101,849人	36,867,385人	101,007人	307,387人	842人
うち高齢者外出支援乗車事業分	5,212,695人	14,281人	5,420,971人	14,852人	△ 208,276人	△ 571人
うち障害者外出支援乗車事業分	2,598,730人	7,120人	2,498,732人	6,846人	99,998人	274人
乗車料収入(税抜)	8,031,362,192円	22,003,732円	7,946,652,646円	21,771,651円	84,709,546円	232,081円
増減率					1.1%	1.1%
定期	1,695,206,942円	4,644,403円	1,659,595,002円	4,546,836円	35,611,940円	97,567円
うち特別乗車証分	392,303,640円	1,074,804円	405,247,580円	1,110,267円	△ 12,943,940円	△ 35,463円
定期外	6,336,155,250円	17,359,329円	6,287,057,644円	17,224,815円	49,097,606円	134,514円
うち高齢者外出支援乗車事業分	1,041,741,252円	2,854,086円	1,086,480,947円	2,976,660円	△ 44,739,695円	△ 122,574円
うち障害者外出支援乗車事業分	295,432,781円	809,405円	282,739,059円	774,628円	12,693,722円	34,777円

(2)貸切自動車事業

区 分	平成30年度		平成29年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
営業日数	365日	-	365日	-	0日	-
期末在籍車両数	5両	-	5両	-	0両	-
延実働車両数	1,163両	3両	922両	3両	241両	0両
実車走行キロ	75,304 km	206 km	56,669 km	155 km	18,635 km	51 km
乗車人員	454,617人	1,246人	382,714人	1,049人	71,903人	197人
増減率					18.8%	18.8%
乗車料収入(税抜)	71,108,781円	194,819円	57,552,686円	157,679円	13,556,095円	37,140円
増減率					23.6%	23.6%

※ 再掲(単位:人、円)

乗車人員計(乗合+貸切)

乗車人員(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)

特別乗車証分

高齢者外出支援乗車事業分

障害者外出支援乗車事業分

乗車料収入計(乗合+貸切)

乗車料収入(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)

特別乗車証分

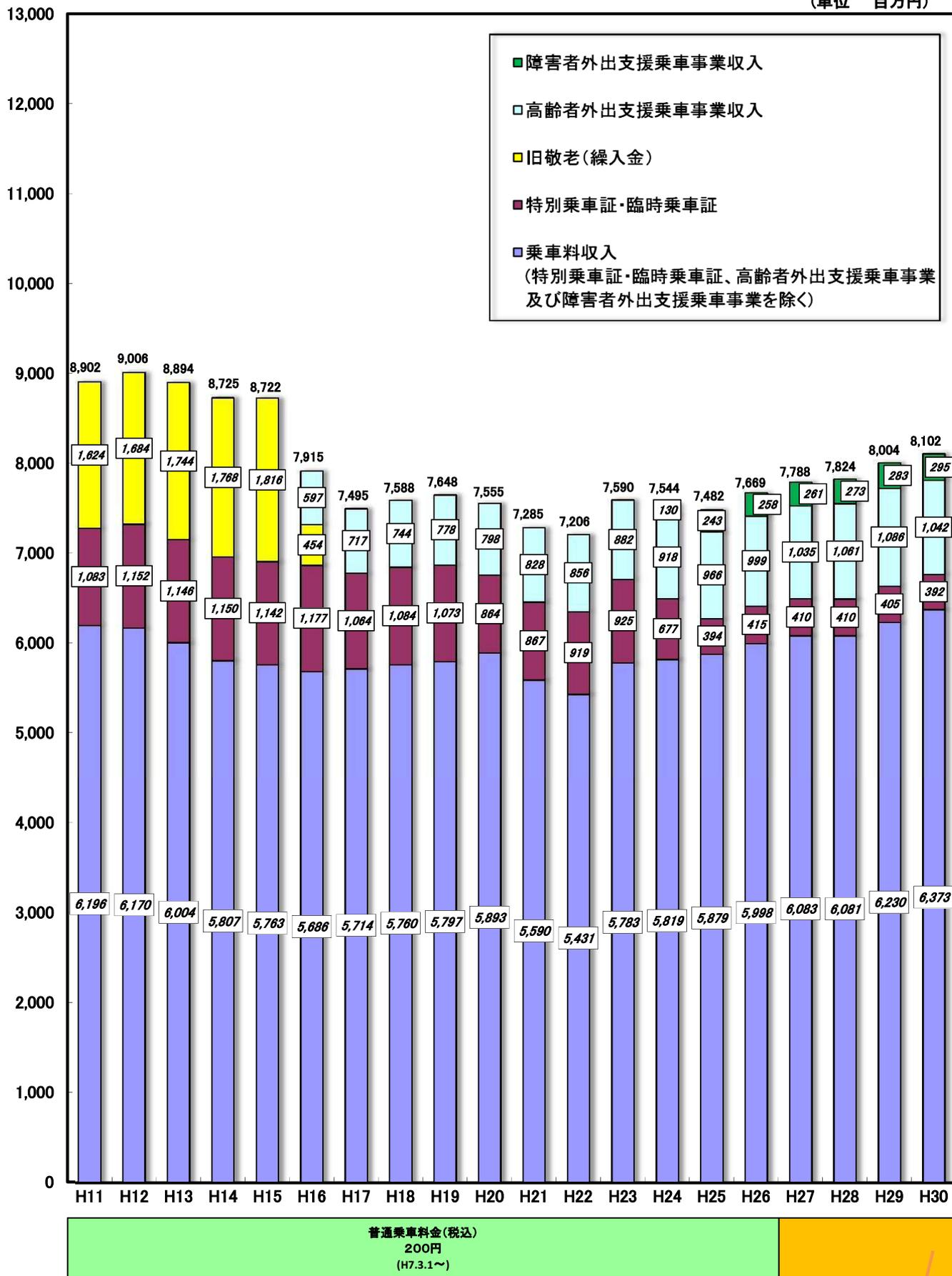
高齢者外出支援乗車事業分

障害者外出支援乗車事業分

	平成30年度	平成29年度	比較増△減	増減率
乗車人員計(乗合+貸切)	50,801,434	50,123,021	678,413	(1.4%)
乗車人員(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	40,296,029	39,420,464	875,565	(2.2%)
特別乗車証分	2,693,980	2,782,854	△ 88,874	(△ 3.2%)
高齢者外出支援乗車事業分	5,212,695	5,420,971	△ 208,276	(△ 3.8%)
障害者外出支援乗車事業分	2,598,730	2,498,732	99,998	(4.0%)
乗車料収入計(乗合+貸切)	8,102,470,973	8,004,205,332	98,265,641	(1.2%)
乗車料収入(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	6,372,993,300	6,229,737,746	143,255,554	(2.3%)
特別乗車証分	392,303,640	405,247,580	△ 12,943,940	(△ 3.2%)
高齢者外出支援乗車事業分	1,041,741,252	1,086,480,947	△ 44,739,695	(△ 4.1%)
障害者外出支援乗車事業分	295,432,781	282,739,059	12,693,722	(4.5%)

4 乗車料収入等（税抜）の推移

(単位 百万円)



普通乗車料金(税込)
210円(現金)・206円(IC)
(H26.4.1~)

5 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における資金不足比率の状況

会 計 名	資金不足比率	経営健全化基準
自動車運送事業会計	-	20.0%

※資金不足比率は現段階での速報値であり、今後、監査委員の審査を経た上で議会に報告し確定します。

<参考> 資金不足比率

当該地方公共団体の公営企業会計ごとの資金の不足額の事業の規模に対する比率。

公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示す指標。